

【名 称】小林家住宅

【所在地】丹波篠山市古市9番地1

【指定番号】第7号

【指定年月日】令和2年3月2日

【構 造】①主屋（木造2階建）
②土蔵（土蔵造2階建）
③納屋（木造平家建）
④土塀
⑤庭



小林家住宅

【敷地面積】440.82 m²

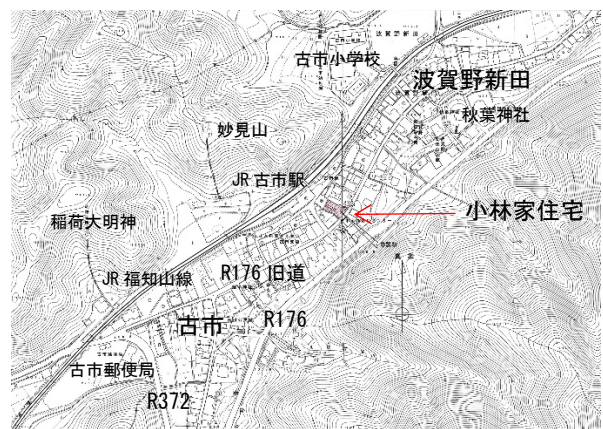
【建築面積】180.23 m²

【延床面積】231.17 m²

【建築年代】天保年間（1831～1845）

【建造物の由来・沿革・特徴】

小林家住宅が建つ古市は摂津方面や播磨方面へと続く街道の要衝で、江戸時代には藩が指定した多紀三駅の一つの宿場として栄えた。小林家住宅は、江戸時代後期の天保年間の建築と伝えられる。街道沿いにおいて、大正期には北隣の小林家本家と合資会社を運営し、薬や油の小売りを営み、南隣では古市郵便局(大正13年)を開設する地域を代表する名士あった。街道筋に面した正面に細格子、2階に虫籠窓を設けたしっかりとした造りの平入の建物が隣家と双子のように並び建つ姿は、往時の宿場町の姿を今日に伝え、古市を代表する歴史的景観を形成している。



位置図

【指定理由】

小林家住宅は、古市地区において、宿場町の面影を伝える平入町家であり、間口の大半を占める細格子、持送り、小庇等伝統的町家の意匠が色濃く継承されている。加えて、茶室や中庭の造形は古市を代表する大店としての文化的交流をうかがわせ、庭木はまち並みを特徴づける重要な見こしの緑となっている。

また、古市の特徴である石垣の敷地基盤がほぼ完全な形で継承され、まちの成り立ちを伝える貴重なものである。

以上のことから、小林家住宅は古市地区のまち並み景観に欠かすことのできない建造物である。